

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校

学校番号

1

I 自己評価

1	学校教育目標	(1)「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力を持った人材を養成する。 (2)「文武両道」をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3)勤労を尊び、思いやりと奉仕の心を持って社会に貢献する人材を育成する。
2	評価する領域・分野	◇ 教務部
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「保護者及び生徒を対象とするアンケート」においては、教育方針や授業、教職員関連項目での肯定的な評価が8割、9割に上っており、良好な評価を得ている。
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇主体的な学習態度や確かな学力の育成 ◇全校体制による授業改善と評価の工夫
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・各分掌、学年会、教科会との緊密な連携 ・教務部内の効率的、有機的な業務展開及び業務内容の推進（業務担当制の徹底）
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
	(1) 授業時間や教育課程の見直しと検討 (2) 研究授業・公開授業・研修などを通じた授業改善・教科指導力の向上 (3) 3年間を見通した学習支援資料「学習シラバス」の充実と活用 (4) 教科会の有効な運営 (5) 1年生への初期指導の工夫と充実 (6) ホームページや広報誌の効果的な活用	(1) 各種考査（外部模試を含む）の得点分析 (2) 各教科による生徒の「授業アンケート」の分析 (3) 進路希望調査をもとにした家庭学習時間などの分析 (4) 各種行事終了後のアンケート実施と分析 (5) 「保護者及び生徒を対象とするアンケート」評価の分析
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点
	・年2回の授業公開月間により、教員相互の授業参観、生徒による授業評価、教科会の充実により、授業改善と工夫に努めた。 ・前期の反省を教科内で行い、授業分析と課題の共有、後期へ向けての方針と対策を検討した。 ・1年生に対して、「学習シラバス」を有効活用するとともに、入学直後のオリエンテーションを充実させ、初期指導を徹底した。 ・定期的なホームページの更新、学校案内の一新を行い、高校見学会、中学校訪問時などに配布した。	① 職員相互の積極的な授業参観や意見交換が行われたか。 ② 教科会、学年会などで十分な意見交換ができたか。 ③ 初期指導が生徒の学習支援として機能したか。 ④ 日々の業務が混乱なく円滑に行われたか。 ⑤ 外部参加者を期待した行事の実施状況などに広報の効果があつたか。
10		10 評価
		A B C D A B C D A B C D A B C D A B C D
11	成果・課題	総合評価
	○大学入学者選抜試験に耐えうる確かな学力育成に必要な教育課程の変更を実施した。 ○教員相互の授業参観、生徒による授業評価、教科会の充実により、授業改善と評価の工夫ができた。特に生徒による授業評価は、授業担当者や各教科において詳細な分析がなされ、改善へ向けての有効な資料となった。 ○中学生の保護者、県外高等学校やその他教育関係者の本校への訪問、視察向けの概要を説明した資料（学校紹介用プレゼンテーション、学校要覧、学校案内など）の更新を行った。 ○平成32年度導入予定の大学入学希望者学力評価テストの情報収集と本校の対応策について検討した。 ●大学入学者選抜試験に耐えうる確かな学力育成に向けて、継続的な対策を検討していく必要がある。 ●大学入学者選抜試験に向けた確かな学力育成のために、カリキュラムの変更を伴わない新3年生への対策について検討する必要がある。 ●大学入学希望者学力評価テストへ向けての本校の対応について、引き続き研究していく必要がある。	A B C D
12	来年度に向けての改善方策案	
	・大学入学者選抜試験に耐えうる確かな学力育成に向けて、教育課程や65分授業、年間行事について、総合的な見地から引き続き見直しや検討を加えていきたい。 ・各学年ごとに週末課題・長期休暇課題の量や内容、その与え方、夏季学年登校日の時間割編成、課題講座の在り方など、特に新3年生をはじめとして、さらに検討と工夫をしていきたい。 ・生徒及び保護者による学校評価や授業評価などを分析し、より効果的な生徒への指導が可能となるように、教科担任や学級担任とも連携を図りながら、全校体制での指導をより一層進めていきたい。 ・大学入学希望者学力評価テストへ向けての本校の対応について、引き続き研究していきたい。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・授業参観で、生徒たちが今の世の中に関わることを学んでいることに感銘した。
- ・先生が、自身が好きなことを教えていくのだという熱意を持って指導している。
- ・あることを好きな生徒が、そのことを他の生徒に教え、教わった生徒は喜んでいるという構図があり、理想的である。
- ・目標へ向けてどのような実践を行うと、どのような成果が表れるのかを予測し、実践内容、具体的な取り組みを精査すべきである。
- ・岐阜高校から進学を切り離すことはできない。他県の高校も参考に、予備校に頼らない本校独自の道筋を付けた教育を施していくべきである。
- ・単に大学に入るだけでなく、将来は社会や企業のリーダーとなって活躍する人材、つまり主体的に考え、行動していく生徒を育てることが求められている学校である。

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校

学校番号

1

I 自己評価

1	学校教育目標	(1)「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力を持った人材を養成する。 (2)「文武両道」をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3)勤労を尊び、思いやりと奉仕の心を持って社会に貢献する人材を育成する。	
2.	評価する領域・分野	◇ 進路指導部	
3.	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒及び保護者からは適切な情報を示し生徒の可能性を引き出していると大変高い評価をいただいている(A, Bの評価生徒約94%) ・高い学力を持つ生徒が多いがキャリア設計などの自らの将来に対する積極性にやや欠ける。	
4.	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇興味や関心を幅広く喚起し、生徒の能力や適性を正しく理解させ、将来の在り方や生き方を自ら洞察できるように指導する。 ◇生徒の興味や関心に応じた適切な進路情報の提供と的確な進路指導を通して、職業観や勤労観を育み、主体的に自己の進路を選択決定できる能力の育成に努める。 ◇学習ニーズに応じた効果的な課題講座を実施し、学習習慣の確立と定着を図り、大学入学者選抜に合格できる教科学力の充実と誠実な学習態度を育む。	
5.	重点目標を達成するための校内における組織体制	・1、2、3年の各学年会、各分掌、各教科との連携・協力をはかり生徒の進路実現のための協力体制を作る。	
6.	目標の達成に必要な具体的な取組	7. 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)	FPTの利用 (「職業・学問体験」プログラム・大学とのジョイントセミナー・大学調べ・職業調べ等)	(1) 進路意識調査の活用、個人懇談	
(2)	PTフォーラム、PSセミナー、学年集会などの学校行事、PTA主催行事	(2) PTA個別懇談、アンケート調査	
(3)	学習支援講座(課題講座)	(3) 課題講座参加率や各種考査	
(4)	実力考査、外部模試等の資料提供・共有と各学年会、各教科との連携	(4) 各種外部模試の結果	
8.	取組状況・実践内容等	9. 評価視点	
10		10評価	
	・「職業・学問体験」プログラム、大学とのジョイントセミナー、ジョイントセミナーat 東大、先輩に学ぶ、卒業生と語る会、PSセミナー、PTフォーラム、等各種行事の実践 ・課題講座、実力考査、各種模試 ・資料の充実・精選・提供	① 主体的に自分の進路を考えさせることができたか。 ② 大学進学を目指す学力を身につけさせることができたか。 ③ 生徒、職員に計画的に資料を提供し、整備ができたか。	A B C D A B C D A B C D
11	成果・課題		総合評価
	○ 「職業・学問体験」プログラムにより多くの生徒は刺激を受け各自の将来像を前向きに考えることができています。 ○ 生徒及び保護者から、「学校は、生徒の進路希望に沿った適切な進路指導をしている」(学校評価アンケート項目24および20)という問いに対して大変高い評価を受けることができた。(A, Bの評価保護者約88%、生徒約91%) ○ FP室において赤本、過去問の整備ができ、生徒への進路情報の提供の充実を図ることができた。また、模試問題をアーカイブ化するなど職員への進路情報の提供の工夫と充実を図っており、今後は経年比較などの活用について模索する。		A B C D
12	来年度に向けての改善方策案		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「職業・学問体験」プログラムの活用を再考し生徒がより意欲的に参加する形態を模索する。同時に生徒ひとりひとりが自らのキャリア設計を意識し行動する態度を育む。 ・ 成績上位層においてはたくましい進路意識の育成を図り、また成績下位層へ学力的・精神的な両面からのめ細かで手厚いサポートする。 ・ 確かで強い学力の育成のために、教務、学年会、各教科と連携・協力してサポート体制を充実する。 ・ 来年度は校内実力テストをはじめとする学習教材の適切な配置を研究すると共にし、その活用や反省を学年会・教科会などと共有する中で、生徒の確かな学力を充実させる体制をより堅固なものにする。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・ 岐阜高校から進学を切り離すことはできない。他県の高校も参考に、予備校に頼らない本校独自の道筋を付けた教育を施していくべきである。
- ・ 主体的に活動し、考えて動いていく生徒を育てることが求められている学校である。
- ・ 勉学だけではなく、グローバルリーダー養成事業のような体験ができると、世界へ羽ばたこうとする生徒が自然に集まってくると考える。しかし、グローバルリーダー養成事業のような体験を入れ込むことを受けて、勉学についていくのが精一杯の生徒たちの支援も大切になってくる。
- ・ 単に大学に入るだけではなく、岐阜高校に求められている人材の育成、例えば企業に入ってリーダーになっていく人材の育成を目指す取り組みが大切である。
- ・ 東大、慶応、一橋などの大学へ入り、将来はリーダーとなって活躍する人材を育成や海外のハーバード、ボストン、マサチューセッツなどの大学へ入学する支援をし、直接的なグローバルリーダーになる人材の育成など大きな目標を掲げ取り組んで欲しい。
- ・ 学校や地域で、海外へ行って活躍する人材育成の支援をしていくことも大切である。地域との連携も大切な進路指導の要素である。

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校

学校番号

1

I 自己評価

1	学校教育目標	(1)「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力を持った人材を養成する。 (2)「文武両道」をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3)勤労を尊び、思いやりと奉仕の心を持って社会に貢献する人材を育成する。
2	評価する領域・分野	◇生徒指導
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・ほとんどの生徒が、本校の高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせる指導に対して理解を示し、高い評価を得た。 ・保護者による評価の「社会規範や身だしなみの指導」については、昨年度より肯定的な評価の増加が見られた。また、教育相談、いじめ防止、体罰の防止への取組については、「わからない」という回答がやや多いため、広報不足の感があるが、対象となる生徒が少なく地道な取組の成果であると考え。引き続き地道な取組と効果的な情報発信について工夫していきたい。
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「生命」を大切にする心や態度の醸成 ◇基本的な生活習慣の確立と自己指導能力の育成 ◇個に応じた適時・適切な指導
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導部（教育相談・保健室を含む）と学年会との緊密な連携のもと、必要十分な情報交換を行うとともに、対応や支援が必要な生徒については、分掌と学年との共通理解のもと、協力して組織的・有機的に対応する。
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
	(1) 生徒への呼びかけと情報提供 (2) 各学年・担任との密接な連携	(1) 昨年度までの統計資料との比較 (2) 教員による生徒の学校生活状況の評価
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点
	・集会時やHRへの文書を通して、自転車走行における注意喚起を継続的に行い、交通事故防止に努めた。 ・各学年との連携のもと、身だしなみ指導や遅刻指導を粘り強く行った。 ・教育相談担当を中心として、各学年・担任と生徒情報を綿密に交換し、必要時には巡回専門医や専門機関と連携した対応をとった。	①交通事故件数が減少したか、登下校時の交通マナーが向上したか ②基本的な生活習慣の確立に繋がったか ③適時・適切な生徒支援ができたか
10	10 評価	
		A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
11	成果・課題	総合評価
	○人権教育において、命の尊さをテーマにした講話や統一LHRなどを設定することにより、自他の生命を尊重する態度の育成に繋がった。 ○学校周辺通学路に登校時にあいさつ運動を兼ねた登校指導を行い、粗暴な運転者に対しては警察と連携して迅速に対応し、生徒の安全な登下校環境を確保した。 ○教育相談活動では、問題を抱える生徒の今後の指導の在り方を検討するケース会議の充実に努め、必要に応じて巡回専門医や専門機関との連携を図り、各学年や担任とともにきめ細かな対応をとることができた。 ○職員研修会において、教育相談、発達障がいについて、本校の生徒の状況に合ったお話を講師の先生から拝聴し、教員のスキルアップにつながることができた。 ▲交通事故を防ぐために、幾度となく自転車走行時の諸注意を連絡して注意喚起してきたが、本年度のこれまでの自転車事故は増加した。 ▲遅刻者数の大幅な減少が見られず、基本的な生活習慣を確立させることが不十分であった。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
12	来年度に向けての改善方策案	
	① 「自他の生命の尊重」については、交通事故の防止により一層の指導の充実を目指し、関係諸機関や他校との連携を継続する。また、引き続き長期休暇前に「命の尊さ」をテーマにした活動を設定するとともに、人権統一LHRのさらなる内容の充実を図る。 ② 挨拶の励行・時間の厳守など基本的な生活習慣の確立については、各学年との連携のもと、集会をはじめ様々な教育場で継続的な指導を行うことにより、自己の人格の評価や社会的評価に影響を及ぼすものであることを認識させ、自己指導能力の育成に努める。 ③ 全職員が個々の生徒のきめ細かな観察に努めるとともに、学年会・関係者会議などにおいて積極的な情報交換を行い、支援生徒の早期発見・早期対応に努める。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・ 自分の主張ができる生徒、自分で判断して行動できる生徒を育てて欲しい。
- ・ 制服、校則など、生徒の意見を聞く機会も必要である。

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校

学校番号

1

I 自己評価

1	学校教育目標	(1)「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力を持った人材を養成する。 (2)「文武両道」をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3)勤労を尊び、思いやりと奉仕の心を持って社会に貢献する人材を育成する。						
2	評価する領域・分野	◇特別活動部						
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・岐高祭など各種校内行事について、生徒自身が積極的主体的に参加する姿勢がみられた。 ・岐高祭や芸術鑑賞に多くの保護者が参加することで、本校の特別活動に対する関心の高さがうかがえた。 ・部活動に自主的に参加する生徒の率は高く、活動も活発である。 						
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒会活動や部活動、ホームルーム活動を通して自己充実感や成就感を醸成すると共に、集団生活の中での好ましい人間関係を構築し豊かな社会性を育む。 ◇校外研修の機会を通してお互いに対する思いやりと全体への奉仕の心を学び、自主的・実践的活動力を育成すると共に、集団への帰属意識の高揚を図る。 ◇文化講演会や芸術鑑賞会などを通して、幅広い教養、豊かな情操や感性を育成する。 						
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長を中心とする職員による各種行事に関わる協議、検討。 ・生徒会執行部を中核とした、各種委員会委員および一般生徒による実践体制。 						
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標						
	(1) 各種校内行事実践のための組織作りと支援 (2) 質の高い校外行事や講演会の実施のための関係機関との協議と連携	(1) 各種行事や活動への生徒の取り組みや成果に対するアンケートなどにおける評価 (2) 懇談会での意見や、生徒および保護者を対象とする各種アンケートの結果分析						
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価					
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に、岐高祭や球技大会、周辺の清掃活動等各種行事を実施し、活発に活動した。 ・校外行事として、林間学舎活動、修学旅行、遠足等を、各学年と協力して安全に実施した。 ・文化講演会、芸術鑑賞を実施した。 ・部活動は、活発に活動し、各種大会で上位入賞する生徒を輩出した。入部率も高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ①参加生徒は活発に活動できているか。 ②職員他の協力体制、組織は確立できているか。 ③生徒の自主性を育成できているか。 	A	B	C	D		
11	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会を中心に計画、実施した岐高祭は大変盛況であり、夏期休業前から準備に取り組んできた全校生徒が達成感や充実感、連帯感を持つことができた。 ○林間学舎活動、修学旅行、遠足等は各学年の協力を得て、安全かつ充実した内容で行うことができた。 ○部活動は、限られた活動時間の中で充実した活動を行った。生徒の入部率は高く、4月の部登録人数は1年生96%、2年生83%、3年生89%で、積極的自主的に活動し、各種大会で上位入賞する生徒を輩出した。 ○太陽の日等のボランティア活動は、呼びかけの結果、各種委員会と少数の有志の他、部活動単位で参加する等、特に秋は3年生がほぼ参加できないにもかかわらず参加人数が増加し、200人規模の活動になった。 ▲岐高祭等で、一部の職員にまだ負担が大きいところがある。また、円滑な運営のため、職員間の意思の疎通を十分にする必要がある。 ▲各種ボランティア活動に自主的に参加する生徒をさらに増やすために、参加への呼びかけや宣伝を努力する必要がある。 			A	B	C	D
12	来年度に向けての改善方策案							
	<ul style="list-style-type: none"> ・岐高祭等の校内行事について、生徒および職員の組織の明確化をある程度すすめることができたが、さらに適切な任務分担と人数配置を行い、必要事項の連絡等を徹底し、円滑な運営を図りたい。 ・ボランティア活動について、部活動との連携により参加生徒を増加させることはできたが、自分から参加する生徒はまだ少ない。さまざまな機会をとらえ、全校生徒への呼びかけをさらに徹底したい。 							

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・ 他校のバスケットの全国優勝はその学校運営の大きな力となる。取組の参考になるのではないか。
- ・ リーダーになる人材、主体的に活動し考えて動く生徒の育成が求められる学校である。自分の意見を持ち判断できる生徒の育成、また、発言力のない生徒が意見を出せる場の創造をしてほしい。

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校

学校番号

1

I 自己評価

1	学校教育目標	(1)「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力を持った人材を養成する。 (2)「文武両道」をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3)勤労を尊び、思いやりと奉仕の心を持って社会に貢献する人材を育成する。		
2	評価する領域・分野	◇保健厚生部		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生面に配慮しているでは、高い評価を得ている。 ・自信や台風などの場合の対応マニュアルについても高い評価を得ている ・施設設備につて満足しているが、清掃状況はまだ十分とは言えない。 		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇健康・安全教育及び校内美化運動の推進により、心身共に健康な生徒の育成を目指す。 ◇学校保健安全法、消防法等に基づく保健・安全の活動を推進する。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全委員会・安全衛生委員会・防災対策委員会 ・生徒会保健委員会・生徒会美化委員会 		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 保健活動とおし心身の健康について理解する。 (2) インフルエンザ等の感染症予防活動及び予防接種の啓発活動。 (3) 校内美化活動を推進する。 (4) 警報発令時や災害時の対応について理解する。	(1) 保健室・相談室の利用状況など。 (2) マスク・うがい・手洗い・換気などの予防行動や予防接種率の状況。 (3) 整頓された教室。清潔感を感じずるトイレの状況、定期点検・評価など。 (4) 命を守る訓練や防災指導などにより徹底。		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	(1) 月々の統計や季節による健康課題など、保健だよりなどによる啓発活動、保健室利用者への保健指導。 (2) 感染性の胃腸炎などの感染症予防行動の啓発活動 (3) 毎日のトイレ掃除後などの美化点検。定例・随時の安全点検の実施。 (4) 防災指導、避難訓練の実施。	①保健統計調査による。 ②感染症予防活動状況や予防接種率による。 ③美化委員会・保健委員会及び教員の評価による。 ④保護者・生徒のアンケート調査による。	[A] B C D [A] B C D A [B] C D [A] B C D	
11	成果・課題	○健康診断の集計結果や新体力テストの結果から、生徒は発育・発達面や体力においても順調に向上している。また、有所見者には治療勧告をおこなっている。 ○感染症などにより、全校的な健康問題に発展しないよう指導を強化している。 ○勤労体験学習や美化委員会活動をおし校内美化に貢献した。 ▲防災緊急時対応について、共通理解を図っている。警報発令時の対応や災害発生時に備え、身の安全がはかられるよう、今後とも命を守る訓練などの充実に努めたい。		総合評価 [A] B C D
12	来年度に向けての改善方策案 ・年間をおし感染症対策を重点に保健活動を推進する。インフルエンザやノロウイルスなどによる感染症が校内の健康問題にならないよう保健指導をさらに充実・発展させる。 ・クーラーや暖房機の利用による二酸化炭素濃度の問題から、教室の換気を習慣化するよう指導を徹底する。 ・校舎を大切に使い、トイレはいつも美しい状態に保てるようにする。 ・防災では、警報発令時の適切な対応や、不測の事態に対応できるよう防災意識を高めるとともに防災用具を充実させ、安心で安全な学校づくりを推進する。			

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・ 子どもの受験が終わるまでは、引き続きインフルエンザの予防等、家庭でも健康管理に気を付けてきた。学校での健康管理についても、引き続きよろしく願います。
- ・ 学校保健安全委員会に出席してみて初めて、子どもたちの健康のために様々な取り組みがされていることを知れた。
- ・ たくさんの先生方に健康面だけでなく、環境の面でもお世話になっているのだなということが知れた。
- ・ 高校生の覚せい剤使用のニュースがありました。その後も、覚せい剤使用に関するニュースが続いている。口に入れるものには慎重にならなければいけないということを子どもたちに指導していく必要がある。

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校

学校番号

1

I 自己評価

1	学校教育目標	(1)「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力を持った人材を養成する。 (2)「文武両道」をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3)勤労を尊び、思いやりと奉仕の心を持って社会に貢献する人材を育成する。
---	--------	---

2	評価する領域・分野	◇図書部													
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・図書館を利用して、読書が習慣になっている生徒も多くいる反面、ほとんど図書館を利用したこともなく、年間読書冊数も1～2冊しかしない生徒まで読書の実態には大きな差がある。読書傾向は小説が多い。													
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇年2回の「朝読書週間」やLHRにおける図書館利用を通じて、読書習慣をつけさせ、読書力を涵養し、深い人間性や叡智を養い、岐高S Iに資する。													
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会 ・図書視聴覚委員会 ・図書局（部活動） 													
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7	達成度の判断・判定基準あるいは指標												
<ul style="list-style-type: none"> (1) 年間2回実施する毎朝15分間の朝読書週間 (2) 先生方の推薦図書冊子「一燈」作成配布 (3) 読書感想文コンクールへの参加 (4) 図書局生徒による、図書館利用促進活動 (5) 図書館講演会等の行事による利用促進 (6) 視聴覚室の整備と機器の充実 		<ul style="list-style-type: none"> (1) 「朝読書週間」の自己評価、読書冊数 (2) 貸し出しの総冊数 (3) 読書感想文の提出 (4) 購入図書に対するリクエストの状況 (5) 視聴覚室の利用状況 													
8	取組状況・実践内容等	9	評価視点												
<ul style="list-style-type: none"> ・読書感想文指導を学年、教科と連携して行った。 ・年2回の「朝読書週間」を担当・学年会と連携して行った。 ・行事等の特集展示、講演会と関連づけた特集などによる利用の促進に努めた。 ・視聴覚教室の整備と機器の充実に努めた。 		<ul style="list-style-type: none"> ①学年、教科等と連携した読書指導が行えたか。 ②授業支援、行事催事、読書案内が活発に行えたか。 ③視聴覚機器の利用の促進ができたか。 													
		10 評価													
		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">A</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">B</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">C</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> </table>		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D												
A	B	C	D												
A	B	C	D												
11	成果・課題	総合評価													
<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が、幅広いジャンルの本を読むようになった。今年度は実用書や歴史・哲学といった方面の書籍を読む生徒が増加した。図書館利用率は昨年度より伸びた。 ○授業やLHRで図書館を積極的に利用してもらい、生徒の図書活動へのきっかけとなった。 ○読書感想文コンクールでは、優秀賞を始め4人の生徒が入賞した。 ○「朝読書週間」では、職員の共通理解のもとに、有意義な読書時間を過ごすことができた。 ▲図書館主催の行事について、宣伝等により、一層の参加者の増加を図りたい。 ▲図書費予算が大幅な減額となったため、選書にも苦慮しており幅広い新刊図書を購入することができなくなった。 		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">A</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">B</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">C</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> </table>		A	B	C	D	A	B	C	D				
A	B	C	D												
A	B	C	D												
12	来年度に向けての改善方策案														
<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の「朝読書週間」に対する、共通理解を深め、読書のきっかけの一助にしていく。 ・授業やLHR等における図書館の一層の活用してもらうために、図書館から情報を発信し、提案していく。 ・図書館主催の行事や催事を企画し、身近に感じ、魅力ある図書館を目指す。 ・読書オリエンテーションで読書の重要性を伝え、生徒の読書習慣の確立を目指す。 ・視聴覚室をより活用してもらえるような、スケジュールの調整や利用方法を工夫する。 															

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分の意見を持ち、自分で判断できるよう読書を通して教養を身につけてほしい。 ・そのためにも、図書室にいろいろなジャンルの本をそろえてほしい。
-------------	---

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校

学校番号

1

I 自己評価

1	学校教育目標	(1)「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力を持った人材を養成する。 (2)「文武両道」をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3)勤労を尊び、思いやりと奉仕の心を持って社会に貢献する人材を育成する。		
2	評価する領域・分野	◇ 渉外部		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「学校からの連絡文書等が保護者に確実に届けている（届けられている）」に対する生徒、保護者両者からの評価は昨年度比で多少の昇降はあるが80%以上の家庭で「あてはまる」。 ・「PTAや部活動後援会等の関係団体の徴収金の執行内容等が詳細に公表されている」では90%以上の保護者が「あてはまる」と答えている。 ・「地震・台風などの緊急時の対策マニュアルの周知」が保護者、生徒とも高い評価をもらい、保護者の場合、98.3%が「あてはまる」と答える ・平成24年度途中より、学校行事実施の際の保護者駐車場を廃した関係も多少影響してか、PTA総会、PTフォーラムへの出席率が低下傾向にある。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇積極的な広報活動を心がけ、情報提供をより確実に実施する。 ◇PSセミナーを実施し、キャリア教育の一助とする。 ◇林間学舎“友學館”の奉仕活動に参加してもらいやすくなる工夫を行う。 ◇奨学金給付の斡旋を行う。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・PTA、各分掌、各学年とが密接に連携できる組織・雰囲気づくりに心掛ける。		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7	達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 職業体験プログラム等の様々な行事を「岐高だより」で紹介するなど内容の一層の充実を図る。 (2) 学校HPの活用、広報の仕方の工夫と保護者へのメール配信による呼びかけ。 (3) 奨学金応募への積極的広報活動。 (4) PSセミナー。		(1) 多彩な紙面、新企画。生徒・保護者の生の意見・感想等の数。 (2) PTA総会・PTA会員フォーラムへの保護者の参加率。 (3) 応募申込数。 (4) 実施後の生徒アンケート。	
8	取組状況・実践内容等	9	10	評価
	・文書での案内・携帯電話及び電子メールの積極的な活用、特に電子メールにより本部役員との連絡は密接かつ確実に実施。 ・毎号新たな企画を加えている。119号：3月に実施の海外研修。120号：科学の甲子園、3年連続全国ベスト10入り報告。121号：グローバルリーダー養成事業より珠玉の言葉の紹介など。 ・PSセミナーは「とても有益」との生徒評価は76%と例年通り、高い評価。放課後にはPSセミナーとは別企画であるが、講師によるミニライブを実施。	①本部役員との密接な連絡により、大会参加等における連絡ミスもなく、円滑に運営できたか。 ②保護者・生徒のメール登録数は。 ③「岐高だより」紙面に工夫の跡は。 ④実施後の生徒アンケートの結果は。		A B <input checked="" type="checkbox"/> C D <input checked="" type="checkbox"/> A B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D <input checked="" type="checkbox"/> A B C D
11	成果・課題	▲PTA総会への出席率はやや向上し、昨年度比5.0%UPで49.2%。ここ10年は50%前後を確保してきていたため、50%台の回復が課題である。 ▲3年保護者のPTフォーラムへの関心は高く、3年の学年委員会のPTフォーラム企画への提案による内容充実もあり参加率は57.8%確保。2年は48.7%と2.4%ダウンしたが10年前の30%台に比べると健闘している。1年は52.3%で昨年度比8.8%UP。学校行事への参加率低下を食い止め、向上させることが課題である。 ▲「一斉配信メールサービスの有効活用」の「あてはまる」が27年度比較で8.3%ダウンしている。「一斉配信メールサービス」は「緊急連絡メール」との意味合いを兼ねるため、やや使用に躊躇する面があり、登録率が向上しているが利用機会が多くなかった。もっと多くの利用が課題である。 ○平成27年度当初の「緊急連絡メール」再登録、未登録保護者への登録促進の働きかけにより登録率向上。27年度も全家庭配付の「年間行事予定表」への「緊急連絡メール登録」のQRコード掲載、「緊急対応マニュアル」の全家庭配付を実施。		総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
12	来年度に向けての改善方策案	・学校行事の出席率向上には、PTA会員のニーズに可能な限り応える企画、保護者・学校・学年・担任の意識の共有化を図る工夫が必要である。学年団・その他の分掌との共通理解を図りたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・ 単に大学に入るだけでなく、岐阜高校に求められている人材の育成、主体的に活動し、考えて動いていく生徒の育成の取り組みんでいってほしい。
- ・ 教育は褒めることであり、生徒の主体性、自立心を目覚めさせる。発言力のない生徒の意見や活躍を出せる場をつくってほしい。

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校

学校番号

1

I 自己評価

1	学校 教育 目標	(1)「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力を持った人材を養成する。 (2)「文武両道」をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 (3)勤労を尊び、思いやりと奉仕の心を持って社会に貢献する人材を育成する。
---	----------------	---

2	評価する領域・分野	◇学校活性化委員会																	
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	[本校活性化のための提言について] ・グローバル化への対応を視野に本校の将来像を検討する必要がある。 [グローバルリーダー養成事業について] ・県立高校改革リーディングプラン推進事業の趣旨を理解し、改革を具現化する五つの柱を設定した。																	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	[本校活性化のための提言について] ・本校の将来像全般について検討し、提言をまとめる。 [グローバルリーダー養成事業について] ・平成25年度及び26年度に開発・実施された内容を充実させつつ、28年度以降の実施を視野に実践する。																	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・部員3人 ・兼務者6人（教務部3人、進路指導部3人）																	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																	
(1)これまでの本校を検証し、新たな方策を加えて提言としてまとめる。 (2)平成25、26年度の事業実績を受け、新たな企画を含めて実施する。		左記の各内容について、教員、生徒の評価を合わせて検討し、成果について総合的に評価する。 グローバルリーダー養成事業については、評価委員会の助言を容れて評価する。																	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																
・提言については、現状を分析しつつ課題を絞り込み、具体的な方向性について検討を行っている。 ・グローバルリーダー養成事業については、五つ全てのプログラムを実践することができた。		①現状の分析など ②提言の精査・検討 ③各事業の実施 ④ 広報的活動	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</td> <td style="padding: 2px;">B</td> <td style="padding: 2px;">C</td> <td style="padding: 2px;">D</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B</td> <td style="padding: 2px;">C</td> <td style="padding: 2px;">D</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</td> <td style="padding: 2px;">B</td> <td style="padding: 2px;">C</td> <td style="padding: 2px;">D</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B</td> <td style="padding: 2px;">C</td> <td style="padding: 2px;">D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D																
A	B	C	D																
A	B	C	D																
A	B	C	D																
11	成果 ・ 課題	総合評価																	
・提言については、概略を作成し、その内容を検討中である。 ・グローバルリーダー養成事業については、実践したプログラムについて成果と課題をまとめ、平成28年度以降の運営に生かす。 ・生徒の運営による職業・学問体験プログラムを行うことができた。		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</td> <td style="padding: 2px;">B</td> <td style="padding: 2px;">C</td> <td style="padding: 2px;">D</td> </tr> </table>		A	B	C	D												
A	B	C	D																
12	来年度に向けての改善方策案	・提言を受けて、本校の新たな取り組みに向けて具体策を示す。 ・グローバルリーダー養成事業については、3年間の実践が完結した。これを受けて平成28年度以降の運営について引き続き取り組む。																	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年1月27日

【意見・要望・評価等】	・グローバルリーダー養成事業について貴重な意見をいただいた。「職業・学問体験プログラム」の実施では、生徒が企画・運営する取り組みができ成果があった。来年度も同様の事業を実施する計画である。
--------------------	--